

タイ王国大使館が東北大学及び東日本大震災の被災地を訪問しました（2022/6/24-25）

テーマ：防災、留学生、2011年東日本大震災
場所：宮城県仙台市

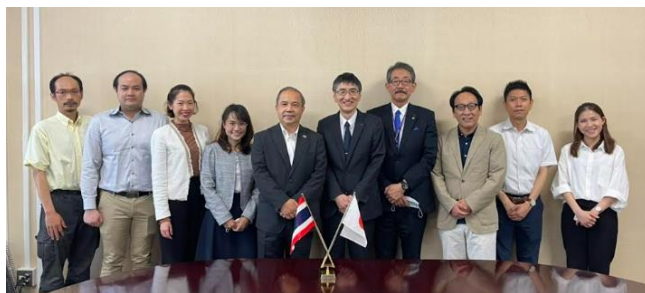
2022年6月24日から25日にかけて、タイ王国大使館の駐日タイ王国特命全権大使シントン・ラーピセートパン氏、参事官2名等、合計5名が、東北大学片平本部、2011年東日本大震災の被災地を訪問しました。

6月24日の東北大学片平本部では、植木俊哉理事・副学長、長坂徹也副学長、今村文彦総長補佐・災害科学国際研究所所長、サッパシー・アナワット准教授（津波工学研究分野）等が訪問を対応しました。東北大学に在学しているタイ留学生は現在約50名であり、今年は創立115周年・総合大学100周年のため、タイリエゾンチーム及びタイ校友会（同窓会）との共同で様々な活動を企画しています。東北大学片平本部での懇談会では、これからの企画イベントの他、本学の世界に強い関心のある研究分野である災害研究についても意見交換しました。サッパシー准教授は2011年東日本大震災を経験した後、タイ王国大使館に協力し、防災講演会や大使館の緊急計画策定・避難訓練指導等をサポートしています。

6月25日は、サッパシー准教授が仙台市の震災遺構である荒浜小学校を案内しました。学校における東日本大震災当日の被害と避難状況、学校周辺の津波防災対策（防潮堤、嵩上げ道路等）を視察し、今後の巨大災害に対して大使館の防災対策に参考になる情報が得られたとのことでした。

今回の訪問より、東北大学及び当研究所は、一層タイ留学生及びタイ大使館との連携を深めることができました。

文責：サッパシー アナワット（津波工学研究分野）



東北大学片平本部での懇談会



震災遺構・荒浜小学校を訪問